

RouteMagic Console Manager

RM-CM400

リリースノート

Routrek Networks, Inc.



- Version 4.3.0 -

製作著作 © 2010 Routrek Networks, Inc.

このドキュメントの著作権は、株式会社ルートレック・ネットワークスが所有しています。このドキュメントの一部または全部を無断で使用、あるいは複製することはできません。このドキュメントの内容は、予告なく変更されることがあります。

ルートレック・ネットワークスのロゴおよび RouteMagic は、株式会社ルートレック・ネットワークスの登録商標です。

本書に記載されている製品名等の固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

目次

1. はじめに	1
1.1. 本書の目的	1
1.2. 本リリースの動作環境	1
1.3. 本書の対象読者	1
1.4. 関連ドキュメント	1
2. ソフトウェアVersion 4.2.2からの変更点	2
2.1. 新機能の追加	2
2.2. 仕様の変更と追加	2
2.3. その他修正	2
3. Version 4.3.0における制限事項	3
4. Version 4.3.0へのアップグレード	5

第1章 はじめに

1.1. 本書の目的

本書は、RouteMagic Console Manager(以下RM-CMと記述)上で稼動するソフトウェア・バージョン 4.3.0に関して、RM-CMの設置・運用上の留意事項などを中心に記述しています。RouteMagic 製品の仕様ならびに操作方法全般に関しては、「RouteMagic Console Manager 取扱説明書」「RouteMagic Console Manager RM-CM400 ユーザーズ・ガイド」、および「RouteMagic Console Manager クイックリファレンス」をご参照ください。

1.2. 本リリースの動作環境

RM-CMソフトウェアVersion4.3.0は、RM-CM400ハードウェア上で動作します。RMSを利用する場合は、RMS(RouteMagic Server)Version 4.0以上の環境が必要となります。

1.3. 本書の対象読者

本書は、次の方を対象に記述されています。

- ・ RM-CMのコマンドおよび操作性を理解されている方
- ・ ネットワーク環境の設定に関して基礎的な知識のある方

1.4. 関連ドキュメント

RM-CMには、本書の他に、次のドキュメントが用意されています。

- ・ RouteMagic Console Manager RM-CM400 取扱説明書

RM-CMの設置とネットワーク機器への接続に必要な情報を記載した、製品添付の説明書です。

- ・ RouteMagic Console Manager クイックリファレンス

RM-CMが提供するコマンドの機能を記述したハンドブックです。

- ・ RouteMagic Console Manager RM-CM400 ユーザーズ・ガイド

RM-CMをご利用いただくために必要な作業を中心に、RM-CMが提供する機能とその利用方法を説明しています。

- ・ RM-CM セットアップサーバ構築・運用ガイド

多数のRM-CMを設置される場合の、一括セットアップ／バージョンアップに関して記述しています。

第2章 ソフトウェアVersion 4.2.2からの変更点

RM-CMソフトウェアVersion4.3.0では、従来のVersion4.2.2に対して下記の変更が行われています。現在稼動しているRM-CMのソフトウェアバージョンは、show version コマンドにより確認できます

「Version 4.3.0へのアップグレード」参照

2.1. 新機能の追加

- ・ connectコマンドで接続した操作記録をsyslogサーバへ転送することが出来ます

使用方法は従来のconnect-logと同様にset spyコマンドで出力先のメールポートの代わりにログサーバを指定します。

設定例:

```
[rmc@myrmc]# set connect-logserver1 xxx.xxx.xxx.xxx ←syslogサーバのアドレスを設定
```

```
[rmc@myrmc]# set spy rhp1 logserver1 ←rhp1の操作ログの送信先にlogserver1を設定
```

```
[rmc@myrmc]# set port rhp1
```

```
[rmc@myrmc(rhp1)]# set connect-log ←rhp1の操作ログ送信設定
```

- ・ rhpポート数をRM-CM400は40個に増加

2.2. 仕様の変更と追加

- ・ 無し

2.3. その他修正

- ・ 無し

第3章 Version 4.3.0における制限事項

RM-CM Version 4.3.0では、以下のような機能的制限事項がありますのでご注意ください。

- ・ 自己診断機能について

RM-CMでは内部において自己診断機能が動作しております。診断の結果、近い将来動作不良が発生することが予想された場合、予防として自動再起動を行うことがあります。その際監視対象装置のログは保存されます。

- ・ 空パスワードのアカウントへはsshでのログインが出来ません。telnetを使用するか、他のアカウントで一旦ログインした後に当該アカウントに対しパスワードを設定してください

- ・ WEBインターフェースについて(RM-CM1200のみ)

RM-CM機能の中の基本的な設定、情報表示を行うことが出来ます。

全ての機能を利用するには、従来のコマンドラインインターフェースまたはWEBインターフェース内の「RM-CMコマンド実行」の機能をご利用ください。

- ・ 標準でフィルタ・スクリプトが用意されている装置種別について

標準で対応されている装置種別は、`show version` で表示されます。

また、`show target-filter`, `show target-script`コマンドでフィルタやスクリプトの内容を見ることが出来ます。

(ciscoの場合は、ターゲットタイプ名が「cisco-ios」となります)

標準でフィルタ・スクリプトが設定済みの装置種別に対しても`set target-filter`, `set target-script` コマンドで内容を上書きすることが可能です。

また、`set no target-filter`, `set no target-script`コマンドを実行した場合、フィルタやスクリプトは初期設定値に戻ります。

- ・ Cisco機器を自動操作する場合、操作の度にログアウトするのではなく一般ユーザ権限でログインしたままとなります。

本仕様がセキュリティ上問題となる場合、弊社ダウンロードページにて、毎回ログアウトするスクリプトを提供しておりますのでご利用ください。

- ・ DNSを使用している場合、hostsデータベースに対して登録されているドメイン宛にメールを送信することができません。この場合、メールのリレーホストを経由するか、IPアドレス直接指定でのメール送信を行ってください。

- ・ USB-シリアルコンバータを使用して、RMCのCOMポートにログインしている場合、コンソールへの大量のテキストのペースト(貼り付け)が正常に動作しない場合があります。

- ・ RMSから送信された定石コマンドメールの実行の際、実行時間が20分以上かかる場合はタイムアウトエラーとなります。

- ・ RM-CMのtelnetコマンド実行時に、ログイン先で通常のログアウト処理をした場合でも、RM-CM側でのコマンド終了ステータスは"error!"扱いになります。

- ・ `set options pppmail` でメールを最初からPPP経由で送信する設定にした場合以下の制限があります。

- ・ PPP経由での送信に失敗したメールの再送信は、別の新規メールが発生した段階で行われます。
- ・ PPP経由でのPOPメール取得には未対応です。
- ・ set target-type
customされているポートに対して、script-testコマンドを実行した場合、その実行結果はshow log comNには記録されません。また、set spyが設定されていても、spyの対象にはなりません。
- ・ RADIUS認証サーバ対応について
 - ・ 認証方法はPAPのみに対応しています。
 - ・ 特権パスワードおよびPPPサーバの認証は、RADIUS認証に対応していません。
 - ・ RADIUSサーバ上のパスワード変更には対応していません。
 - ・ アカウンティング記録には対応していません。
- ・ モニタへの表示は、常に英語表示となります (RM-CM1200のみ)
- ・ ETH1ポートはメンテナンス用ポートとなるため、以下の機能制限があります (RM-CM1200のみ)
 - ・ 同一セグメント上のノードとの通信のみが可能です。
 - ・ set dhcpにより、DHCPサーバからアドレスを取得することはできません。
 - ・ set address において、デフォルトゲートウェイを指定することはできません。
- ・ IPアドレスの自動設定機能はサポートされていません。
- ・ rhpポートに対する"connect"コマンドの実行において、プロトコルが"telnet"の場合は シリアルポートへの"connect"同様に"ctrl-¥ x"で終了する事が出来ますが、プロトコルが"ssh"の場合は "ctrl-¥"による操作は使用できません。一般のsshの接続同様にログアウト等の操作によって接続を切って下さい。 ログイン前の状態(パスワード入力プロンプトが表示されている場合など)では"ctrl-C"で終了することも出来ます。
- ・ "set spy comN [tflN] mlN"及び"set spy comN comN"の設定出来る数はRM-CM400では合計8個、RM-CM1200では合計24個に制限。 それ以上になる場合は新たな"set spy comN ..."の設定が出来なくなります。
- ・ 操作ログの同時メール送信数の合計はRM-CM400では8個、RM-CM1200では24個までに制限。それ以上になる場合は新たな"connect"が出来なくなります
- ・ RM-CM管理サーバRMS Ver.4.0.0-4.2.Xは本バージョンには対応しておりません

第4章 Version 4.3.0へのアップグレード

RM-CMソフトウェアVersion4.3.0は、CM400ハードウェア上で稼動します。

アップグレード作業はhttp, tftp経由または、XMODEM / ZMODEM経由で行います。

なお、Version4.3.0アップグレード用ソフトウェアは、RM-CMに搭載されているソフトウェアがVersion4.0～Version4.2.2のいずれかであることを前提としています。

Version4.3.0のアップグレードファイルのサイズの関係から、一時的にRM-CMのデータ領域を広げる必要があります。そのため、あらかじめ「clear log all」を実行した後、「reload」コマンドによりRM-CMの再起動を行ってください。(clear logの前に、必要に応じてログのバックアップを行ってください)

http経由のアップグレード

- ・ RM-CM側からupgrade httpコマンドを実行することにより、アップグレードを実行します

upgrade http http://www.routrek.co.jp/support/download/rmc/rmcm400_430.rm2 ←RM-CM400の場合

tftp経由のアップグレード

- ・ ダウンロードしたアップデートファイルをtftpサーバに格納し、RM-CM側からupgrade tftpコマンドを実行することにより、アップグレードを実行します。
- ・ RM-CMから接続可能なtftpサーバを準備する必要があります。Windowsの場合でも、フリーソフトのtftpサーバを利用することができます。

バージョンアップに必要なソフトウェアは、ホームページから直接ダウンロードできます。バージョンアップに必要な手順等を記述した「RM-CMアップグレード手順書」もホームページからダウンロード可能ですので、詳細はこちらをご参照ください。

ホームページ: <http://www.routrek.co.jp/support/>

※アップグレード作業におけるご注意

- ・ アップグレード時には以前のバージョンの設定が引き継がれますが、アップグレードの前にcopy running-config terminalで表示される設定を別途記録しておくことをお奨めします。
- ・ RMS(RouteMagic Server)をご利用になる場合、RMS Version4.0以上が必要になります。